

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定及び委員意見一覧

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置	0	1	66	6	73	98.6%	8.2%	

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

1

イ 学士課程 No.1~6			4		4	100.0%	0.0%	A
---------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見
--------------------

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

B	B	A	A
---	---	---	---

【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A R3年度の出願数は平年を維持しており、評価できると考える。 ○伊藤委員 A 東北地域において、国際化は大きな課題の一つ。留学生を増やし交流を深化させる努力をさらに望む。 ○鈴木委員 A ○中沢委員 A コロナ禍でもオンラインオープンキャンパスを開催し、入試説明用動画や模擬講義、ウェブ入試相談などを行って例年と同様の数の志願者を確保している。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A
------------------	---

2

ロ 大学院課程 No.7~11		1	3		4	75.0%	0.0%	C
-----------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

【評価】 C C 6	【委員意見】 ○伊勢委員 C 看護学研究科への入学者数への影響は理解できるが、定員充足率で判断するとこのままの評価が妥当と考える。 ○伊藤委員 C 選抜の在り方を検討する必要がある。 ○鈴木委員 C 看護学研究科においてはコロナ禍ではあると思うが、入学者の大幅減であるため。 ○中沢委員 C コロナ禍によって大学院の定員充足率が昨年よりも減少したことは残念である。 ○中島委員 C ○吉沢委員 C 10月入学など入学の時期に幅を持たせることで、入学者の確保につながると思う。
------------------	--

C	C	C	C
---	---	---	---

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

3

イ 学士課程 No.12~24	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
(イ) 教育課程編成の基本方針 No.12~15			3	1	4			
(ロ) 共通教育(基盤教育) No.16~19			4		4			
(ハ) 専門教育 No.20~22			2	1	3			
(ニ) 教育方法と成績評価 No.23~24			2		2			
			11	2	13	100.0%	15.4%	A

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A コミュニティ・プランナーの今後の活躍に期待する。ただ、コミュニティ・プランナーの活動手法もコロナ禍で変化があると思われる。
A 6	○伊藤委員 A 宮城大学食産業学群の「食」が無くなり「生物生産学類」が新たに開設され特色が無くなった感がある。新学類では3つの特徴を活かし、さらなる地域社会への貢献を期待する。
	○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・コロナ感染症対応のために、遠隔授業のための「授業実施管理調整室」の設置やICTを活用した遠隔授業システム及びマニュアル等の整備を優先したが、全般的には種々の工夫により予定していた年度計画を縮小はしても実行できていると考えられる。
	・講義室を改修して三密回避のために座席数を増加させ、看護学実習のための各種シミュレータ等看護実習用機器類の導入(県の感染症対策費による補助)を行っている。
	・地域フィールドワークでは3つの自治体に対象を絞りつつ実施し、コミュニティ・プランナー・アソシエイトも30名の学生に授与している等の実績が認められる。
	○中島委員 A No.20のIV評価は意見の分かれたところですが、全体評価には反映されませんね。
	○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

4

□ 大学院課程 No.25～34			10		10	100.0%	0.0%	A
(イ) 教育課程編成の基本方針 No.25～28			4		4			
(ロ) 各研究科 No.29～31			3		3			
(ハ) 教育方法と成績評価 No.32～34			3		3			

【評価】 A  
A 6

【委員意見】  
○伊勢委員 A  
○伊藤委員 A  
○鈴木委員 A  
○中沢委員 A

・食産業学研究科では、地域社会のニーズに対応した高度専門職業人養成及び研究者養成のための教育課程を令和3年度から開講するための準備を行っている。  
・食産業学研究科では、令和3年度からの新カリキュラムに対応して、第3期中期計画に最新鋭の機器の整備や機器の更新を盛り込んでいる。  
・看護学研究科では、コロナ禍でも工夫によりCNS教育課程38単位の共通科目を運用している。  
・食産業学研究科では、将来構想(次期教育研究体制スキーム)を策定し、令和3年度からの新カリキュラムを運用する準備を行っている。  
・入学者個々の学修状況に配慮して、遠隔講義等を取り入れた教育プログラムを実施し、社会人入学者が既修単位を大学院の修了要件に換算できる規程を整備した。  
・客観性を確保するために複数教員による博士論文指導体制を中間発表会などに取り入れている。

○中島委員 A  
○吉沢委員 A

大学院の進路指導に関しては、卒業研究との関連の強化が必要ではないかと

A	A	A	A
---	---	---	---

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

5

イ 適正な教員配置 No.35～38			4		4	100.0%	0.0%	A
--------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】 A  
A 6

【委員意見】  
○伊勢委員 A  
○伊藤委員 A  
○鈴木委員 A  
○中沢委員 A

教員人事は公募制で選考し、4分野(教育力、研究力、地域・社会貢献、大学運営)による審査を行っている。また、クロスアポイントメント制度も活用し、昇任の際は職務能力向上計画書をもとに審査を行っている。

○中島委員 A  
○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

6	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
		□ 教育及び教員の質の向上 No.39～42				3	1	4	100.0%
	(イ) 教員評価 No.39			1		1			
	(ロ) 授業評価 No.40				1	1			
	(ハ) 教員研修 No.41～42			2		2			

  

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A A 6 面接授業が6割を超えたことはウイズコロナ対策をしっかりとやられた結果として評価。 ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・教員評価制度を見直して、教員評価制度検討委員会のもとに新しい評価制度による評価を実施している。 ・新授業評価システム(nigala)を導入して学生による授業評価を実施し、授業改善にフィードバックしている。研究科についても授業(教育)評価を本格実施している。 ・FD・SDでは、大学全体1件、学群レベル10件、授業科目レベル9件を実施している。学群レベルでは、オンライン外部研修の受講や次期カリキュラム改定方針あるいは実験実習科目の質保証に関するオンラインFDが実施されている。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	A	A	A

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
7	ハ 教育環境の整備 No.43～45			2	1	3	100.0%	33.3%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊勢委員 A</li> <li>○伊藤委員 A</li> <li>○鈴木委員 A</li> <li>○中沢委員 A</li> <li>・コロナ禍でのソーシャルディスタンス対策として、座席数の拡大のために、既存講義室の固定机・椅子の撤去と可動機・椅子の配置を行ったほか、大和キャンパスでは間仕切りの撤去等による研究室・演習室の講義室化、太白キャンパスでは視聴覚設備の新設、照明・空調設備の更新、可動機・椅子等の整備によるメモリアルホールの講義室化を行っている。また、講義室内の換気対策として不具合のある窓等の修繕を行っている。さらに、看護学実習を実現するため各種シミュレータや看護実習機器をコロナ対策補助金で導入し、実習機会を確保している。</li> <li>・図書館情報システムを更新するとともに、契約型電子書籍を導入してリモートアクセスの利用支援を行うなど、自宅でも学修できる環境を整備している。</li> <li>・グローバルコモンズでは各種の語学講座やセミナーをオンライン実施した。国際交流・留学生センターアシスタントと担当職員が各種の外部研修会やセミナーに参加して、情報収集及び情報交換を行った。また、国際交流・留学生センターでは留学体験談等のオンラインイベントを開催している。</li> <li>○中島委員 A</li> <li>○吉沢委員 A</li> </ul>
A 6	

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	S	A	A

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

8

イ 学修支援 No.46~49			4		4	100.0%	0.0%	A
-----------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

A	【評価】	【委員意見】
	A 6	<p>○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A</p> <p>・前期遠隔授業で履修上の問題を抱えた学生に対して、スタートアップセミナーのクラス担任とスチューデントサービスセンターとが連携して情報を共有し、各科目担当教員が必要に応じて学修支援を行っている。</p> <p>・「スチューデントサービスセンター運営方針」ならびに「学生健康支援基本方針及び健康支援室運営方針」に沿って学生への支援を行い、各学群スチューデントサービスセンターワーキンググループ(看護学群では学生WG)では、欠席しがちな学生や成績不振学生についての情報共有を行っている。この結果、令和2年度の休学者は学部・学群全体で1.25%、退学者は0.53%と、数値目標をクリアしている。</p> <p>・授業評価システム(nigala)及び学修状況可視化システム(alagin)についてのミドルFDをカリキュラムセンターで実施している。ディプロマ・ポリシーに基づく卒業時の学修成果測定を平成30年度から試行しており、昨年度までの測定結果の分析及び検証に基づいて令和2年度は測定項目を変更せず、学生がウェブ上から回答できるよう改善を加えて実施しているとあるが、これは学生に自らの学修成果を点検・自己評価させるということか？評価が良くない場合でも、学生を勇気づける方策が欲しい。</p> <p>○中島委員 A ○吉沢委員 A</p> <p>コロナ禍でのレポートの不提出など問題はなかったのか。学生全体の評価として、オンライン化で問題なく学生が過ごせたのか。</p>

A	A	A	A
---	---	---	---

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

9	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見
	□ 生活支援 No.50~52			1	2	3	100.0%	66.7%	S	<p>【評価】【委員意見】</p> <p><b>S</b></p> <p>○伊勢委員 A 看護学群の専門性を生かした取り組みがよい。</p> <p>S 4 A 2</p> <p>○伊藤委員 S ○鈴木委員 S コロナ禍での行動で、他大学でも行っている当然の行動である(宮城大学特有な行動ではない)と思うが。</p> <p>○中沢委員 S ・遠隔授業実施期間において全学生を対象にした現状調査(5月)やストレスチェック(7月)を行い、ストレス度が高い学生に対してはメール等で呼びかけ、面談を行っている点は高く評価できる。また、新型コロナウイルス感染症の相談専用メールアドレスでの健康相談も実施している。</p> <p>・スチューデントサービスセンターと健康支援室が共同でマイクロFD「コロナ禍における対面授業Q&amp;A」を企画し、オンデマンドで動画配信している。</p> <p>・宮城県との連携により、緊急授業料減免制度を策定し、新型コロナウイルス感染症によって経済的な影響を受けた学生の支援を行っている。</p> <p>○中島委員 S ○吉沢委員 A 休学、退学の理由は、経済的なものであったのか。授業料以外の支援はどうであったのか。学生への給付金などの対策は、どうであったのか。</p>

《参考》 評定実績				R1 (仮)
H29	H30	R1		
A	A	A		A

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見
10	ハ 就職支援 No.53~57			5		5	100.0%	0.0%	A	【評価】【委員意見】 A A 6 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・コロナ禍により「インターンシップ・アドバンス トコース」の学外研修受入不可との回答があったが、「インターンシップ I」でそれら受入企業にオンライン講義を担当してもらえるように変更して実現し、連携体制も維持できている。 ・インターンシップ教育のオンライン実施のメリットを活用して、インターンシップ教育の内容と講義動画のとりまとめを行って学内システム (Teams) 上で継続的に学生が学習できる体制を整え、さらに学生のインターンシップ及び就活経験を基にした独自教材・動画を開発して教育体制の整備に努めている。 ・キャリア支援ガイダンスやキャリア関連科目、実学教育プログラム、業界研究セミナー、医療機関等研究セミナーにおいて、遠隔システムを活用して卒業生を招聘することにより、卒業生や所属企業とのネットワークも拡充できている。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A
11	ニ 社会人・留学生への支援 No.58~59			2		2	100.0%	0.0%	A	【評価】【委員意見】 A A 6 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A 戦略的に国際化を進めるため、県の更なる支援を望む。 ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・社会人学生の就業状況を考慮し、夜間開講、土日開講、夏季・冬季休業期間での集中講義により授業や研究指導を実施しており、県外の外部講師についても遠隔授業によって教育内容の質の維持に努めている。 ・遠隔授業実施期間中は「留学生オンライン・ラウンジ」を実施し、留学生の生活面、精神面における支援を行っている点は評価できる。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A 私費留学生が多いのか。留学生用奨学金の取得率はどうか。

《参考》 評定実績				R1 (仮)
H29	H30	R1		
A	S	A		A

A	A	A	A
---	---	---	---

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価

法人の自己評価に対する委員評価・意見
<p>【特記事項に関する委員意見】</p> <p>○伊藤委員 ・休退学の原因として心の問題が令和になってから増えている。コロナに起因するものだけではないのでは。 ・グローバルな視点を備えた人材育成に期待する。</p> <p>○中沢委員 コロナ禍によって大学院の定員充足率が昨年よりも減少したことは残念である。</p>

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

## 2 研究に関する目標を達成するための措置

### (1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

12

イ 研究の方向性 No.60~63			4		4	100.0%	0.0%	A
-------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	<p>○伊勢委員 A</p> <p>○伊藤委員 A</p> <p>○鈴木委員 A</p> <p>○中沢委員 A</p> <p>・「研究の実施方針」に基づき、学内競争的研究費として特別研究費(指定研究35件、震災復興(発展)特別研究4件、産学連携・地域貢献促進研究6件)合計45件が採択されている。</p> <p>・宮城大学ならではの優位性・独自性を有する研究成果の創出に向けて特認研究(学長裁量経費)の学内公募を行い、学長及び研究費審査会の審査を経て、申請のあった7件すべてを採択している。また、特認研究以外の学内研究費においても、学群横断的な研究(複数学群の教員が共同で行う研究)3件を採択している。</p> <p>・企業や自治体から申し込みのあった共同研究・受託研究・奨学寄附金を積極的に受け入れ、数値目標を越える51件について地域課題の解決に寄与する研究を推進している。</p> <p>○中島委員 A</p> <p>○吉沢委員 A</p>
A 6	

A	A	A	A
---	---	---	---

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
13	□ 研究水準の向上 No.64~65			2		2	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】 A	<p>【委員意見】</p> <p>○伊勢委員 A 積極的な学外公表の実績は評価できる。</p> <p>A 6 ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・研究成果の学外公表促進を促し、国際ジャーナルや論文誌への論文掲載、学会発表や学術専門図書の刊行を行ったほか、宮城大学学術機関リポジトリによる論文の公表を行っている。作品の受賞や特許取得と合わせて業績数の数値目標を設定し、ほぼ達成している。 ・学内の研究成果を共有するために研究交流フォーラムを開催して、研究発表を遠隔で実施したほか、前年度に採択されたすべての特別研究費、寄附金研究費、国際研究費による研究について誌面発表を行い、学内での共有化を促進している。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A コロナ禍で研究ができないという報告が多い中で、着々と論文化がすすめられ、目標値を上回っていることは素晴らしい。</p>
【評価】 A	<p>【委員意見】</p> <p>○伊勢委員 A 企業への技術移転、受託事業、受託および共同研究契約について、今後の成果に期待する。</p> <p>A 6 ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・本学ウェブサイトの新着情報へ地域連携センターの活動を随時掲載・更新するとともに、「宮城大学シーズ集2021」を令和3年2月に発行し、活動成果を情報発信した。 ・自治体等が抱える課題をテーマとしたセミナー「地域公共交通計画実践講座」(全2回)と、自治体・企業向けセミナーとして「クローバーウ二の実用化に向けた公開セミナー」(1回)を開催し、産学官連携を推進している。 ・地域連携センターを核とした相談受付及び企業・自治体等訪問により、企業・自治体等からのニーズと本学シーズとのマッチングを行い、8件の受託事業と6件の受託研究・共同研究の契約につなげ、研究成果を地域に還元している。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A</p>

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	A	A	A

14	ハ 研究成果の地域社会への還元 No.66~68			2		2	100.0%	0.0%	A
----	--------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

A	A	A	A
---	---	---	---

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

15

イ 研究の実施体制 No.69~71			3		3	100.0%	0.0%	A
--------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】  
A  
A 6

【委員意見】  
○伊勢委員 A  
FS事業の進展が伺える。今後の目標設定が必要か。  
○伊藤委員 A  
○鈴木委員 A  
○中沢委員 A  
・地域連携センターの専任コーディネーターが、FS事業を活用して地域の課題解決に関連する研究開発案件及び外部資金獲得(3件)に導き、また、令和元年度に実施したFS事業が進展して1件の受託事業獲得に至っている。  
・研究活動におけるコンプライアンス及び研究不正に関する教員研修については、実例を交えて講師が説明するビデオ研修を実施し、全教員及び関係職員が受講している。また、学生・院生にはe-ラーニングによる研究倫理教育プログラムを継続実施している。  
○中島委員 A  
○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

16

ロ 研究費の配分 No.72~76			5		5	100.0%	0.0%	A
-------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】  
A  
A 6

【委員意見】  
○伊勢委員 A  
○伊藤委員 A  
○鈴木委員 A  
○中沢委員 A  
・「研究の実施方針」及び「教員研究費要綱」に基づき、基礎的研究費を配分した。一律の基礎的配分に加え、前年度の外部競争的研究資金獲得額等を基に上乗せ配分を行うとともに、新任教員にも配慮して、配分している。  
・「研究の実施方針」に基づき、研究費審査会において審査・評価を行い、学内競争的研究費として特別研究費(指定研究35件、震災復興(発展)特別研究4件、産学連携・地域貢献促進研究6件、特認研究7件)及び国際研究費(海外研究B)1件の合計53件が採択されており、コロナ禍のため遠隔会議システムを用いて研究交流フォーラムを開催し、口頭発表4件を行っている。  
○中島委員 A  
○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見
17	ハ 研究者の配置 No.77			1		1	100.0%	0.0%	A	<p>【評価】【委員意見】</p> <p style="margin-left: 20px;">A</p> <p style="margin-left: 20px;">A 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伊勢委員 A</li> <li>○伊藤委員 A</li> <li>○鈴木委員 A</li> <li>○中沢委員 A</li> <li>・ 教員採用においては、候補者の教育研究業績の審査とともに、研究成果等のプレゼンテーション及び面接を実施して今後の取組姿勢等を確認し、より研究力の高い人材確保に努めている。</li> <li>・ 「研究の実施方針」に基づき、特別研究費の配分にあたっては若手研究者に配慮することを基本方針に定めて、審査会委員による審査を行っている。</li> <li>○中島委員 A</li> <li>○吉沢委員 A</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">地域とのマッチングから新しい共同研究が生まれることは素晴らしい取り組みと考える。</p> <p>【特記事項に関する委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伊勢委員 研究に対する積極的な取り組みが評価できると感じた。</li> <li>○吉沢委員 研究の取り組みは順調に行われているが、科研費等でURAを導入したことへの成果はどのようであったのか、相談件数など、今後地域未来共創センターの活用をどのようにしていくか、具体的な見える化をお願いしたい。</li> </ul>

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	A	A	A

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	0	1	19	0	20	95.0%	0.0%	

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

18

(1) 地域社会への貢献 No.78~83

			4		4	100.0%	0.0%	A
--	--	--	---	--	---	--------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見
--------------------

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A
A 6	・看護学群では臨地実習を展開し、看護に求められる役割や機能を実践的に学ぶ機会を確保し、事業構想学群及び食産業学群では、地域社会・産業への関心と学習を深化させるために、インターンシップⅠ(2年:必修科目)及びインターンシップⅡ(3年:選択科目)を遠隔講義システムを活用して円滑に実施している。 ・看護学研究科では、ニュースレターに掲載する内容を学外ウェブサイトで公開することにより省力化とニュースの即時性を両立させ、研究科の紹介と入試説明に関する動画をウェブサイトで開催して、入試説明会を2回開催している。事業構想学研究科では、特別講義の中で各教員の専門領域の現在の重要なテーマに関するワークショップ等を行い、食産業学研究科では、自治体や企業に募集案内を送付し、社会人入学(前期課程に1名、後期課程に1名)が決まっている。 ・コロナ禍により一部の公開講座・セミナーをオンライン開催としつつ、一般向け公開講座、学群企画公開講座、看護職者向け専門講座、自治体・企業向けセミナー等を開催し、産学官による連携を継続しながら教育研究資源を還元している。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
19	(2) 産学官の連携 No.84～86			2		2	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<p>○伊勢委員 A</p> <p>○伊藤委員 A</p> <p>S1 産学官連携は実学を推進する大学として更に強化すべき。食産業学群のクローバーユニや障害者支援などマスコミを活用した展開も特筆したい。</p> <p>A5 ○鈴木委員 A</p> <p>○中沢委員 A</p> <p>・連携協定締結先の民間企業・団体や自治体等に対して、相談対応(22件)や受託事業に関連して訪問(24件)し、連携の強化につなげている。</p> <p>・自治体等からのニーズに対して、地域連携センターの専任コーディネーター及び学群コーディネーターが企画立案から参画することにより2件の連携事業が成立し、令和3年3月末時点の市町村等との連携協定数は28件で数値目標をクリアしている。</p> <p>・自治体等が抱える課題を解決するため、地方自治体派遣枠としての大学院生(1名)の受け入れを継続した。</p> <p>・KCみやぎ産学共同研究会の委託事業への応募を学内に周知し申請を支援することで、4件の採択に至っている。</p> <p>○中島委員 A</p> <p>○吉沢委員 S</p> <p>コロナ禍の有事といわれる時期に、看護教員をはじめ多くの宮城大学教職員の社会貢献は素晴らしい。</p>

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	A	A	A

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見
20	(3) 大学間及び高等学校との連携 No.87～89			3		3	100.0%	0.0%	A	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】【委員意見】</p> <p style="background-color: yellow; margin: 0;">A</p> <p style="margin: 0;">A 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伊勢委員 A</li> <li>○伊藤委員 A</li> <li>○鈴木委員 A</li> <li>○中沢委員 A</li> <li>・ 事業構想学群及び事業構想学研究科では、学都仙台コンソーシアムのサテライトキャンパスで予定されていた大学院の特別講義兼公開講座をオンラインで実施している。</li> <li>・ 東北大学が主幹として平成29年度より展開している文部科学省「次世代アントレプレナー育成事業」のコンソーシアムに参画し、コンソーシアムのうち5大学が連携して実施した「レジリエント社会の構築を牽引する起業家精神育成プログラム」を履修している。</li> <li>・ 県内の3つの自治体(3自治体とも2年目)を対象地域として「地域フィールドワーク」を開講し、全学の1年生444人が履修した。地域の事業者等のインタビューを素材とした映像教材を学生が視聴し、Zoomにより自治体等との質疑応答を実施した。</li> <li>・ 全学共通科目「コミュニティ・プランナー概論及び演習」(110名履修)、「コミュニティ・プランナー実践論」(63名履修)、「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習」(45名履修)を開講し、地域社会に貢献できる人材養成に向けた課題解決型の学修(PBL)に取り組んだ。この結果、コミュニティ・プランナー・プログラムの所定の単位を修得した学生30人に対して、卒業時に「コミュニティ・プランナー・アソシエイト」を授与している。</li> <li>・ 兵庫県立大学とのCPプログラムの遠隔合同発表会については、学生は自宅からオンラインで参加し、Zoomを活用した分科会形式を取り入れることにより両校の学生の交流が促進された。</li> <li>・ 高等学校新学習指導要領で展開される「総合的な『探究』の時間」への対応として、県内9校の高等学校から依頼を受け、高校生向けの課題探究支援を実施した。</li> <li>○中島委員 A</li> <li>○吉沢委員 A</li> </ul> </div>

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
S	A	A	A

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

21	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
		2 国際交流等に関する目標を達成するための措置 No.90～96		1	6		7	85.7%	0.0%
	(1) グローバル化を推進するための教育環境整備 No.90～91			2		2			
	(2) 海外大学等との連携 No.92～93			2		2			
	(3) 留学・留学生支援 No.94～96		1	2		3			

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
C	<p>○伊勢委員 B オンラインを活用した取り組みの積極的な展開を評価できるのではないか。</p> <p>○伊藤委員 C ○鈴木委員 C 外国人留学生を対象とした入学卒の長期的目標を30%としている以上Cとせざるを得ない。宮城県として宮城大学として30%も留学生を入学させる意味があるのか疑問である。</p> <p>○中沢委員 B ・これまでベトナムを中心に行ってきたリアル・アジアプログラムをオセアニアにも展開するため、附属の英語教育機関を有する協定校サザンクロス大学(オーストラリア)とも連携し、さらにマレーシアのサンウェイ大学ともMOUを締結している。</p> <p>・ロンドンメトロポリタン大学(UK)とMOUの締結期間を延長し、今後とも国際交流を継続していくことを確認した。また、デラウェア大学(US)とは短期研修等も含めた具体的内容検討に入っている。</p> <p>・全学生に占める外国人留学生の割合が約2%で、外国人留学生を対象とした特別入学卒の長期的な目標の30%には遠く及んでいないが、外国人留学生を増やすには、国際学生寮等への配慮も必要であり、息の長い事業戦略が必要不可欠と考えるため評価をBとした。</p> <p>・遠隔授業実施期間中は「留学生オンライン・ラウンジ」を実施し、留学生の生活面、精神面における支援を行っている点は高く評価できる。</p> <p>○中島委員 C ○吉沢委員 C コロナ禍では実際的な交流はできなかったが、ここで断ち切れることなく、継続のための努力は認められる。</p>

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	A	B	C

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見
22	3 東日本大震災からの復旧・復興支援に関する目標を達成するための措置 No.97～100			4		4	100.0%	0.0%	A	<p>【評価】【委員意見】</p> <p style="margin-left: 20px;">A</p> <p style="margin-left: 20px;">A 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伊勢委員 A</li> <li>○伊藤委員 A</li> <li>○鈴木委員 A</li> <li>○中沢委員 A</li> <li>・「震災復興(発展)特別研究」を設定して学内公募を行い、研究費審査会の審査を経て4件すべてを採択している。</li> <li>・看護学群では「災害看護プログラム」のポートフォリオを活用し、教員によるフィードバックにより、履修学生の自主活動の継続を支援した。また、事業構想学群では、復興庁が主催する「復興ビジネスコンテスト」に18人が参加し、2組が優秀賞及び企業賞を受賞している。</li> <li>○中島委員 A</li> <li>○吉沢委員 A</li> </ul> <p>【特記事項に関する委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伊藤委員                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・改組された「地域推進・地域未来共創センター」がこれまで以上に地域貢献されることに期待する。</li> <li>・「地域連携コーディネーター」も組織図に入れた方が理解しやすい。</li> </ul> </li> <li>○中沢委員                     <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人留学生を増やすには国際学生寮等への配慮も必要であり、息の長い事業戦略が必要不可欠と考える。</li> </ul> </li> <li>○吉沢委員                     <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での宮城大学の社会貢献は素晴らしかったと思う。それが、県民にどれだけ伝わっているかが見えて来ないのが、少し残念に思う。</li> </ul> </li> </ul>

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	A	A	A

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0	2	12	0	14	85.7%	0.0%	

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

23

(1) 理事長を中心とする運営体制の構築 No.101~105

		1	4		5	80.0%	0.0%	C
--	--	---	---	--	---	-------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見
--------------------

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

A	A	A	A
---	---	---	---

【評価】  
B

【委員意見】  
 ○伊勢委員 B  
 ○伊藤委員 B  
 ○鈴木委員 C  
 A 1 県の監査委員から令和元年度財務諸表の誤りを指摘された以上、Cとせざるを得ない。  
 B 3  
 C 2 ○中沢委員 C  
 ・文科省の「研究機関における公的研究費の監理・監査のガイドライン(実施基準)」履行状況調査を受けたことから、研究費の内部監査に代え、調査で指摘を受けた外部研究補助者の業務管理の不備是正のため、その勤務状況について実態調査を行い、課題整理及び改善策の検討を行っている。不備があったことは残念である。  
 ・県の監査委員による財政的援助団体等の監査において、令和元年度決算における財務諸表について誤りを指摘されたことから、原因究明及び対策立案を行い、理事会において監事に報告を行っている。財務諸表に誤りがあったことは残念である。  
 ○中島委員 B  
 理事長の運営は適切だと考えるが、文科省からの指摘があった(No.104)ので減点。  
 ○吉沢委員 A  
 一昨年との比較からして、リーダーシップを発揮しておられると思う。

24

(2) 戦略的な予算等の配分 No.106

			1		1	100.0%	0.0%	A
--	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】  
A

【委員意見】  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○鈴木委員 A  
 ○中沢委員 A  
 A 6 大学の財政状況や年度計画の達成に配慮した予算編成の基本方針を策定し、役員によるヒアリングを実施した上で、第3期中期計画の資金計画を踏まえた予算編成を行っている。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I					III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見				
		I	II	III	IV	計							《参考》 評定実績		R1 (仮)		
		H29	H30	R1													
25	(3) 学外の有識者等の登用 No.107～108			2		2			100.0%	0.0%	A	A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・副理事長等に学外有識者を任命したほか、大学運営の円滑な遂行を図るために理事兼副学長を登用している。 ・経営審議会の学外委員が過半数となる状態を維持している。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A	A	A	A	A
26	2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 No109			1		1			100.0%	0.0%	A	A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A 戦略的な外部資金の獲得とそれらを積極的に活用した地域未来研究及び地域との共創を推進する新組織「研究推進・地域未来共創センター」の設置のほか、導入予定のリサーチアドミニストレーター(URA)と地域連携コーディネーター(CDN)を含めた研究推進・地域連携のマネジメント機能強化のための準備が進められている。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A	A	A	A	A

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I					II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見
27	3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 No110～112				3				3	100.0%	0.0%	A	【評価】 <b>A</b> 【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・教員の雇用では任期制を維持し、科目担当教員配置方針に基づいて、専任教員、特任教員、非常勤講師を配置している。また、専任教員の勤務形態については、専門業務型裁量労働制を維持し、併せて勤務状況等報告書により実態を把握するとともに、深夜・休日における所定外労働の是正、産業医による面談等により勤務の適正化に努めている。 ・教育、研究及び産学連携活動を推進することを目的とし、クロスアポイントメント制度を活用して教員1名を採用している。 ・事務職員については計画的採用により4名を採用し、令和3年3月現在でプロパー化率83%である。目標管理制度を導入して年度目標を立て実績を評価する仕組みを運用している。 ・令和2年度から公立大学協会へ事務職員を派遣し、法人職員の資質向上に努めている。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A エフォート率何%のクロスアポイントであったのか。その効果はどのようであったか。	
28	4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 No.113～114		1	1					2	50.0%	0.0%	C	【評価】 <b>C</b> 【委員意見】 ○伊勢委員 B 今年度の目標が未達というものではないと考える。 ○伊藤委員 C ○鈴木委員 C ○中沢委員 C 新たな統合システムの構築を速やかに進めていただきたい。 ・平成29年度に「情報システム高度化推進基本計画」を策定し、情報の一元管理とコスト削減の観点から学務基幹システムの構築を目指したが、令和元年度に構築を休止しており、一元管理が進んでいないことは残念である。 ・庶務業務の合理化を図るため、給与計算事務処理等と年末調整基礎データ作成の業務委託を実施している。 ○中島委員 C ○吉沢委員 C 事務部の改革はどの程度進んだのか。	
													【特記事項に関する委員意見】	

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	A	A	A

A	A	C	C
---	---	---	---

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0	1	9	0	10	90.0%	0.0%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見
--------------------

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

29

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 No.115~119

	1	3	4	75.0%	0.0%	C
--	---	---	---	-------	------	---

- (1) 外部資金の獲得 No.115~116
- (2) 自己収入の確保 No.117~119

C C6	【評価】	【委員意見】
		<p>○伊勢委員 C</p> <p>○伊藤委員 C</p> <p>○鈴木委員 C</p> <p>○中沢委員 C</p> <p>・ 外部研究資金の獲得額が、第2期中期計画で設定されていた令和2年度目標額(250,000千円)及び暫定評価後の年度計画目標額(190,000千円)を大きく下回る結果となっているのは残念である。</p> <p>・ 地域連携センターの専任コーディネーターが、外部資金における公募情報を学内に広く提供するとともに、関連する専門分野の教員と申請先との相談の場を設ける等で申請を支援し、受託事業においては契約8件、受託研究・共同研究においては採択6件と大きく貢献している。</p> <p>・ 新型コロナウイルス感染症の影響による学生の家計急変等の諸事情を考慮して、前期・後期の授業料の納付期日及び前期授業料の納付を猶予又は分割して納付する場合の納付期日について、延長する規程改正を行っている。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた授業料未納による除籍が生じないよう、文科省の通知に従う特例に関する事務処理要領を定めている。</p> <p>○中島委員 C</p> <p>○吉沢委員 C</p> <p>科研費の採択、受託研究費の受け入れの可否について、もう少し分析する必要があるのではないかと。学内限定の研究費の獲得と科研費との関係などもう少し競争力を高める仕組みが必要ではないかと。教員評価との関係など。</p>

C	C	A	A
---	---	---	---

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I					II					III					IV					計					Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見			
30	2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 No.120～123																										100.0%	0.0%	A	<b>【評価】</b> <b>【委員意見】</b> <b>A</b> A 6 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・「コピー費管理方式」を継続し、電気料金については、大和・太白・坪沼を一括した契約業者を一般競争入札で選定した結果、大幅な料金削減につながった。 ・昨年度、複数年契約で締結した大和キャンパス施設管理等総合業務委託にデザイン研究棟の管理業務を追加する変更契約を締結し、経費削減を推し進めている。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A			
31	3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 No.124～125																										100.0%	0.0%	A	<b>【評価】</b> <b>【委員意見】</b> <b>A</b> A 6 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A 「大和キャンパス等再編整備基本計画」に基づいて、大和キャンパスではデザイン研究棟への移転跡地となった実習室等を講義室へ転換し、さらに太白キャンパスではメモリアルホールの講義室化を行い、施設の有効活用を推進している。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A  <b>【特記事項に関する委員意見】</b> ○中沢委員 地域連携センターの専任コーディネーターが、外部資金における公募情報を学内に広く提供するとともに、関連する専門分野の教員と申請先との相談の場を設ける等で申請を支援し、受託事業においては契約8件、受託研究・共同研究においては採択6件と大きく貢献しているのは、専任コーディネーターの力量であろう。 ○吉沢委員 外部資金取得のための努力は、もう少し必要。取得状況などの分析と大学内での公開が必要ではないかと思う。			

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	B	A	A

A	A	A	A
---	---	---	---

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置		0	0	6	0	6	100.0%	0.0%	
32	1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置 No.126～129			4		4	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見
--------------------

《参考》 評定実績			R1 (仮)
H29	H30	R1	

【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・大学認証評価における改善課題について、令和2年度計画及び次期中期計画に反映するとともに、令和5年度を予定している認証評価機関への改善報告に向けて対応の検討を行い、改善を進めている。 ・各種外部評価や自己点検・評価の結果について、学内の各会議体において共有するとともに、各部門への指示や学内のとりまとめ作業等を通じて、PDCAサイクルに基づく分析及び検討を進め、次年度計画、次期中期計画に反映している。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A
-----------	--

A	A	A	A
---	---	---	---

33	2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 No.130～132			2		2	100.0%	0.0%	A
----	---------------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 B アンケートとその分析が実施できていないことについては評価に反映させるべきではないか。 ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・大学案内及びウェブサイトについては、広報グラフィック基本コンセプトのもと、統一感のある広報を展開している。印刷物については、コロナ禍で休止するものがあつた一方、看護学研究科ニュースレターやアカデミック・インターンシップなどではオンラインコンテンツへ変更するなど柔軟に対応したのもあつた。 ・広報推進体制を活用した情報収集とコンテンツ発信の強化を図るとともに、プレスリリースを積極的に活用した情報発信を行った。また、県内テレビ局や新聞社を中心に個別の情報発信も行い、メディア掲載等は2年前の平成30年度のほぼ2倍に増加している。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A
-----------	---

A	S	A	A
---	---	---	---

# 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	----	-----	----	---	--------	------	-----

法人の自己評価に対する委員評価・意見
<b>【特記事項に関する委員意見】</b> ○中沢委員 情報公開に関して、令和2年度の新着情報およびメディア掲載・出演情報は、2年前の平成30年度のそれぞれの約4倍及び約2倍と大いに増加していることが目立つ。 ○吉沢委員 業績等を明らかにする年報などの公表もしていただきたい。

《参考》 評定実績		
H29	H30	R1

R1  
(仮)

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置		0	0	10	0	10	100.0%	0.0%	
34	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 No.133～136			4		4	100.0%	0.0%	A

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A ・大和キャンパスにおいて、6月末にデザイン研究棟が完成し、8月に研究室移転を行い供用開始した。デザイン研究棟への研究室移転に合わせ、ゾーニングに基づく研究室再配置を行うとともに、移転跡地となった実習室・研究室について、アクティブラーニングでの使用を視野に入れながら、講義室化を進めている。 ・太白キャンパスにおいて、講義室等のソーシャルディスタンス確保に向けた整備を行い、これまで講義で使用していなかったメモリアルホールを講義室化し、教室内の既設固定机・椅子を可動式へ更新する等、教育環境の整備・改善を行っている。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

35	2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 No.137～140			4		4	100.0%	0.0%	A
----	------------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A 情報セキュリティポリシーの整備として、「情報システム及び情報資産の利用等並びに情報セキュリティ対策に関する規程」を新たに定め、情報セキュリティポリシーに関する講習会を動画配信により実施している。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

## 令和2年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
		36	3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 No.141～142			2		2	100.0%

合計	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合
	0	5	122	6	133	96.2%	4.5%

仮評価	S=	A=	B=	C=	D=	S～D合計
	1	30	0	5	0	36

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○鈴木委員 A ○中沢委員 A 人権侵害防止及び対策本部会議を6月に開催し、イエローカードの配布等により、ハラスメントに関する意識啓発と予防に取り組んでいる。令和2年度については非違行為は発生していないが、ハラスメント事案が発生した場合の相談・苦情申し立て窓口の明示、ハラスメント対策としての被害者の救済措置及び加害者に対する措置の両者は策定しておく必要がある。 ○中島委員 A ○吉沢委員 A
A 6	
【特記事項に関する委員意見】	

《参考》 評定実績			
H29	H30	R1	R1 (仮)
A	A	A	A

【委員意見】(全体評価)	
○伊藤委員	・コロナ禍で大変とは思いますが、ウィズコロナで何ができるかをケースバイケースで前向きに取り組んでいただきたい。 ・宮城県の産官学連携への取り組みを推進し、地域貢献する実学の大学として特色をさらに出してほしい。 ・大学が地域連携を行う一つの手段として、大学院に各自治体からの受け入れは大きなポイント。県はじめ各自治体に取り組めない理由、また、大学側がその価値をどう伝えているのか。 ・改組された「研究推進・地域未来共創センター」に期待したい。
○中沢委員	・遠隔授業実施期間において全学生を対象にした現状調査(5月)やストレスチェック(7月)を行い、ストレス度が高い学生に対してはメール等で呼びかけ、面談を行っている点は高く評価できる。また、新型コロナウイルス感染症の相談専用メールアドレスでの健康相談も実施している。 ・全学生に占める外国人留学生の割合が約2%で、外国人留学生を対象とした特別入学枠の長期的な目標の30%には遠く及んでいないが、外国人留学生を増やすには、国際学生寮等への配慮も必要であり、息の長い事業戦略が必要不可欠と考える。 ・令和2年度についてハラスメントの非違行為は発生していないが、ハラスメント事案が発生した場合の相談・苦情申し立て窓口の明示、ハラスメント対策としての被害者の救済措置及び加害者に対する措置の両者は策定しておく必要がある。

S=	A=	B=	C=	D=	合計
1	32	1	2	0	36
3	29	2	2	0	36
0	33	1	2	0	36
0	0	0	0	0	36